

## 環境の神学

### 序論

およそ 40 年ほど前に、「沈黙の春」で、Rachel Carson は私達に次のように警告しました。「私達は自分達だけでなく私達の環境全体をも毒している。」と。しかしその状況は一向に改善されていません。いまやもっと悪くなっています。The Gaia Atlas of Planet Management の Norman Myers は「そのデータの重要さは圧倒的に明白です。最も破壊的であるものは土壌浸食、砂漠化、森林伐採、種の損失、汚染・・・の速度を示すものであります。たとえある見積もりが変化し・・・、それらの多くは予測を超えるよりむしろ下回るものが多数であったとしても。(Lovett 引用、Life 49 頁) 神学者の Brendan Lovett によれば「主要な問題は熱帯雨林の全滅に関わる最も過酷な要求をする気候上の諸条件の下での長年に渡る自然のとても重要な生存実験を一掃することです。」(Earth、23-4 頁) 生物学者の Norman Myers は毎年 2,000 万ヘクタールの降雨林は破壊されたり深刻な激滅にあっていると見積もっています。(McDonagh, *Greening*, 77 頁) これらの森林は地球の半数以上の種を含んでいると信じられています。(Wilson, 185 頁) 「私達の時代で起こったことはただの歴史的な変遷ではありません・・・。それは地球の 45 億年の歴史上並ぶもののない変化です。(Berry and Clarke, 4 頁) 私達は地球の構造をひどく変えてきました。化学、生物系、地質でさえも。(Berry and Clarke, 5 頁) 今はオゾン層を変えています。

私は、多くの人々が破壊の連祷によって打ちのめされると思います。そして環境破壊と同様に、私達には心配すべき、貧困、戦争、核兵器、人種差別、性差別、燃料価格の高騰そして現在の金融危機があります。多くはこの状況の重大さを理解することはできないでしょうし拒絶することもできないでしょう。多くの男性は、自分自身を会社に売り渡し、一人で活動する思考を束縛されています。私は理解しようとしていますーその結果、時々テロやパニックを経験する時もあります。私は何をすべきでしょうか？私は何をすることができますか？人類が絶命するかもしれないという出来事が本当にあるのでしょうか？カトリック教会によって雇用されており独身でいる私はこれらの諸問題に対して考えるためのより多くの自由があります。私はこの諸問題に対する状況や動機付けを人々に知らせることが私の司祭としての仕事の一部だと思っています。それは大変困難な仕事ですが。

### 問題

私は数年前に働いていた教区を思い出します。教区会はずべての月例会のための議題にだいたい 3 つの項目を持っていました：建物、建設積み立て金そして諸行事(最初の親交パーティーなど)でした。そして、準備に参加する人々の数と準備に与えられた時間に関する最も大きい行事はバザーです。それは復活祭とクリスマスを併せたものより大きなものです。教会委員会は環境、若者、外国人の労働者、貧困のためにできることは議論しません

でした。彼らは教区で成人教育さえ議論されず、どのように共同体を共同体の意識を展開させるかについてさえ議論しませんでした。

かつて一度(30年の司祭生活で)ある人が赦しの秘蹟と告解のために私のところに来たことがあります。それは彼女が環境を傷つけてきたというものでした。それは私が導入の話で環境を傷つけていると言及した後のことでした。御受難会の修道士 Thomas Berry が言うように、「クリスチャンがこの変化のスケールについて考え始めたという兆候は今のところまったくありません。」(Berry and Clarke, 6頁)。H. G. Wells の「宇宙戦争」の放送では、Orson Welles はたしか私たちについて話していました: 「無限の無頓着の人々と共に、彼らの統治権の及ぶ下でこの小さな回転している太陽のかけらである浮浪の民は静かに、小さな用事について地球上を行き来していたのでした。」(宇宙戦争「テープ」)。

Lovett (Life, 7) や McDonagh (Passion, 143 頁) と共に、私たちが真っ正直に私たちの状況の重大さに立ち向かわなければならないと信じています。私達が持っている主張する信仰は私達がそうしてまだ望む理由を見つけているのを可能にするべきです。

しかし、私たちの状況の真実に真正面からとんでもなく不承不承取り組まないといけないものがあります。公正に、なるようにと科学者は言い、政府関係者は危機はないと言います。他のものは、問題があることを認めますが、技術がそれらを解決すると主張します。しかし、たばこ業界で働いている医師と科学者は、喫煙が有害でないと主張します。

私が信じている危機の他に科学者たちの要求とその速やかな応答の要求の間の判断をすることはできません。James Lovelock は、地球は生き残るのに必要なことをするでしょうが、人類の種の絶滅も必要かもしれないと言っています。これは危機の重大性を示します。

どうして私達はこの危機に対して忘れぼくなるのでしょうか? たぶん、いつもこのことは重大であったというわけでありませんでした。理解するにはあまりにも大きなものでした。何故、私達はいまだに小さな問題であった時に気がつき、関心を持つことをしなかったのでしょうか?

## 原因

### 聖書

理由の一つは環境、地球に対する私達の態度にあります。アメリカ人の歴史家である Lynn White はこの態度について「arrogance towards nature (自然への傲慢) (McDonagh Greening 119 頁)」の一つとしてこの態度について記述しています。何人かの学者は聖書にこの傲慢について出所を明らかにしています。

神は言われた。「われわれに模って人を造り、海の魚と空の鳥、地のすべての獣、地に這うすべてのものを治めよう。」そして神は自分のかたちに人を創られ、男と女とに創造された。神は彼らを祝福され、そして彼らに言われた。「多くの子を産み、繁栄しなさい。地上を満たしなさい。そして地上を征服し、海の魚、空の鳥そして地上のあらゆる生きるもの動くものの上で支配しなさい。」(創世記 1 章 26-28)

Frederick Turner は中東の環境に対してさらにいっそう戻ることによってこの小道における態度を明らかにしています。貧弱な山、不毛の砂漠、岩棚、および狭い平野で生き残るために、人間は自然界を制御して飼いならして、支配するあらゆる努力をする道筋を持たなければなりません。このことは、彼らが自然界から (McDonagh, Greening1, 113 頁) と神と自分たちを切り離すように導きました。そして、新約聖書には二元性があります: John L. McKenzie は、旧約聖書のこの二元性の唯一の基礎が最初の人間 (208) の罪のために地球に置かれた災いであると言っているにもかかわらず、(ヨハネ 3:31; コリント人への第一の手紙 15: 45-47; コロサイ人 3: 2-5) 地球と地上の、天国と天に対立するものであるのです。

私達は聖書の言葉に対して互いに矛盾した感情を持っています。その一方で神の言葉に靈感を与えられるの信じ、ミサで読み、私たちの信仰の中心である主張をします。他方では、私達は聖書を読み、学ぶ伝統を持っていませんでした。普通のカトリック信者は聖書を読むことを促進されなかったのはずいぶん昔のことでした。オーストラリア人の伯母さんと日本の教区民の双方は私に何年も前に彼らは司祭によって、彼らが誤訳をするかもしれないので聖書を読まないように言われた、と言っていました。定期的に聖書を読むのは私達のうちわずかの人でした。そしてその人たちはよく読むところを選択していました。私達は創世記 1 章 29 節は知りませんが、26-28 節を知っており (肉食主義者のよう)、私達は創世記の 1 章 27 節 (アダムとイブが共に創った) のは知りませんが、2 章の 18-22 節 (アダムがイブの前に創出された) のは知っています。私達は (ヨハネによれば) 私たちはイエスを殺すだけの十分な理由がないことは理解できたのに、ユダは過去において「あなたの敵を愛しなさい」という言葉を忘れ過去においてイエスを殺しました。そしてアメリカ人の教区司祭である Thomas Berry は聖書は世界で最も危険な本かもしれないと言っています。

創世記において積極的に何かを求めている学者達はその 1 章 24 節を選び出します。(そして神は言われた。地上にあらゆる種類の生ける生命体をこれ以降もたらすようにと。すなわち地上のあらゆる種類の家畜、這うものや野に住む動物である。) 例えば、地球は創造において積極的な役割を伴う共同創作者であります。しかしこれは私達に対して明らかであるべきです。私達に告げるために学者や聖書を必要とすることは地球から私達を疎遠にするためです。

聖書が重要なものであると主張している間、様々な聖書研究 (cf Moore, Studies) のモデ

ルなど、私達の大部分は批評（源泉、様式その他、）について知ることを望まなかったり研究する努力をしませんでした。Basil Moore は次のように言っています。「いかなる他のカリキュラムの領域もないところでは、私達は聖書を教えることにおいて私達がなしているように学問と研究の無関心を許容しないでしょう。（Studies, 29 頁）私達は古い車よりも新しいものを好みます。私達はオフィスに最新のコンピューターを買います。私達は最新の釣竿を買います。しかし聖書となると古いもののほうが良く思えます。

## 信仰対確信

おそらく、これは私達の信仰がそんなには深くないということの徴でしょう。おそらく、私達は認めることを好むというよりはより自信がない状態でしょう。Roger Haight は信仰を装う確信について話をします(36)。私達の幾人か（多数？）は聖書に靈感を与えられ、神において受肉されたイエスを確信して主張していますが、しかしまた私達は地球が丸く、シェークスピアがハムレットを書いたことを信じ、明日、雨が降ることを確信したりします。私達の信仰はほとんど私達の頭の中にあります。私は古いカテキズムがこれに寄与する教示へのアプローチであると信じています。私達の多くは実際のところ一度も神に遭遇したことはありません。私達はアブラハムがした旅の類を一度も企画したことはありません。私達はイエスの彼に従うようにという呼びかけを聞いてもいないのです。

社会的な確信の傾向を伴う誤りの始まりは・・・信仰の超越した客体に取って代わるものになります。この活力は人類の不確実に対して、またそれは理解するためのある種の自然な欲求を強化するものとして、そして超越している現実を制御するものとしてこの力動説は控え壁として機能します。結論は同じ措置において信仰の超越した客体は超越していて、信仰の受身の次元を中断しそしてそのかつての原因について新しい緊急性に対するかつての新しい委任をそれ以降引き出すのを止めるということです。しかしその巻き込んだ神学上の混乱を超えて、この過程もまた一般の人々の信仰の人生に悲惨な結果をもたらすでしょう。特に科学的な知識、発見と世界の印象が変化していることは高度な横顔を持つ、急進的な多元論の時代においては。そのような共同体の構成員は彼ら自身と世界について本物の新しい知性の体を成長させ人間が発生させていることで混乱し恐れるのみとなっています。これらの外部の力は知識によって獲得された信念の共同体と世界について残りの国々における競争し、また概観上矛盾した知識の双方を仲違いさせます。その結果は多くの人々が教会を去り、去ることは共同体の閉鎖であり、骨抜きにされ不毛にされた信仰は古来からの信頼に基づく、世界からの孤立です。（Haight36-37 節）

私達の心には多くの引き出しがあります。趣味は一つのもので、仕事も別のもので政治も一つのもの、信仰も別のものでしてその他にもあります。信仰は毎日生活するためのこの世界へのコネクションがほとんどありません。私達はユダヤ教とキリスト教はある奴隷が逮捕者から逃れたとき始まったことを忘れませんでした。私達はイエスの時代にパレスチナが多くのローマ人兵士の滞在する居留地でありイエスを磔にしたのをわすれました。数年前に

私は教会委員会にアメリカ軍事基地に対する彼らの立場のために沖縄の知事をサポートするために手紙を送ることをお願いしました。15人の評議員のうち二人のみがそのとき意見を言い、そして二人ともそのアイデアに反対しました。一人は私達政治から距離をおくべきだと意見を述べ、もう一人はフランスのカトリックはムルロアの核実験のときにいたということを言っていました。そして同様にベースは全く悪くないが、良いこともあると言っていました。

私達の本を読むことにおける選択性と現代の聖書研究の結果を受け入れるのを認めるという不本意は私達が聖書を読む前において私達が信じたいと願うことを決めることを意味します。私達は選択した生き方を支持する航路を選択します。

キリスト教はいつ政治、経済学などから分離するようになったのでしょうか？初期の教会について述べている Joseph Martos は、「大衆は...いつも典礼のこの内部の感謝を分かち合っていたというわけではありません。」と。4世紀のローマ帝国の改宗、5世紀の幼年時代からのクリスチャンの洗礼、6世紀に始まるおよびゲルマン民族の大量洗礼は罪の自覚というものよりむしろ慣習による典礼への多数の参加を意味したでしょう。(225) 彼が典礼についていうことは多分一般的に信仰に対しても当てはまります。キリスト教は380の帝国の公式宗教になりそして教会につながることを望んだ人々はその罪の自覚なしや便利のためにしたかどうかを言うことは時折、困難だったでしょう。改宗の数が増加してくることに直面することにおいて、長い洗礼志願期は保たれましたが、身近な準備の期間と教えの期間は短縮されました・・・」。 (151-152) 聖書はそれ自身公式の宗教として宣言されたキリスト教の結果として傷ついたのでした。ビザンチンテキストの写字生達は「コピーが創られた文体の様式への忠実よりもむしろ文体を通じてコンスタンティンの東方正教を奨励することに関心をもっているように思えます。(Moore, Criticism, 162 頁)

いかなるこの信仰を骨抜きにする起源についてあるにせよ、それは私達が承継してきたという信仰です。1962年の春に出版された沈黙の春では(私は1970年の高校生の時に読みました)、まだバチカンの協議会では、10月に開会され4年間継続しましたが何もこの問題について述べられたことはありませんでした。

別のクリスチャンの奇説では私達はこの世界から別々の信仰に最善を尽くしていると同時に、教会はこの世界の力と設備で同盟関係に入ることが最善をつくしたということです。福音書とは関係のないまたは福音書に反対さえされる件に関わるローマ教皇のリストはとても長いものです。教会はローマ帝国と同盟関係にあります。エイドリン法王はイングランドに侵攻することを英国の王に頼みました。教皇はポルトガルとスペインの間で南アメリカを分割しました。教会はいまだに自身の領土を持ち世界中に大使館を持っています。

神学は現代の宇宙の話に関する接触を絶っています。(Berry and Clarke, 28 頁) どんな事前の洗礼式の教示、成人教育、説教その他であろうとも、一般のカトリック信者は現在

の危機を彼女や彼が理解し反応することができないことは明らかであることになっていきます。またそれは一般のカトリック信者が彼の人生において会社の立場を反映することを奨励していません。Columbans の前の日本の副代表は私におそらく多くの人々がある種の慰めを求めながら教会に来、確実性と一様性の古い教会を好むであろうと言っていました。明らかに彼らは教会が提供する、教会の事業をイメージするところの印象を以前に持っています。もしこれがそうなら、私達は人々に福音は教会に最初にもたらされた時についてなんであるかを知らせる必要があります。

## 神様

Berry は私達の神の考えはまた問題の一部であると信じています。「普及している知覚できる世界を通じて現在の神としていったん知覚した聖職者は、特別な人々との契約関係を伴う世界の創造主である、超越した、一神教の、神格において聖書においてちりばめられていました……。私達は人間と神の事物の自然律に関する人間と神の間の最初の固有の関係をあきらめようとしているのは明らかです。自然の世界は神によって創造されるのと同様に良いものとして説明される時でさえ、あきらめることは超越した神のためになるように契約によって即時和解したことは自然世界について私達の関係と造詣の深い何かをしました。(114)イスラエルを発展させた神の支配的な展望は、自然世界に対して人間の感覚を鈍感にすることができる人間関係に神の焦点をあてるものでした。(McDonagh, Greening, 116 頁) 加えて、神は私達がめっちゃめっちゃにしてしまったところに入りきれいにしてくれることを考えているように見えます。しかし、神は事物を固定するために降りてくれることはないでしょう。少しも全知全能でなく神は実際には力によって介入するには無力です。(Kolbenshlag, 147 頁)

## 人間

そして、「世俗的な存在の霊的な局面を締め出すことに対する霊的な存在としての人間の精進’があります。西洋のクリスチャンの考えでは、人間が非常に特別であるので、人間の魂は直接あらゆる個々の場合において神によって創造されるもので... 人間が非常に特別であるので全く自然界の固有の過程に属さないという感じがあります。そして、これは自然界から私たちの意識に対して心情的な疎外へと働いています。(Berry and Clarke, 115 頁)。

## 贖罪

また私達の贖罪／救いのために必要な強調された事柄は、この世界からの飛ぶことに貢献しています。「信頼している共同体は贖罪の上に重要な事柄を置きます。私達は这个世界にいますが、それについてというわけではなく、・・・さらにこの世界は、妥協せず救い難いです。私達は地上に突き刺されていますが、慎重であることで、より良い未来の人生

のために私たち自身を救うことができるのです。(Farrell, 8 頁) キリスト教は全く人々のアヘンになっています。」教会の贖罪の神秘性は、本質的な事柄が全てのその関心を超えて関わり人となった救い主を通じてこの世界からの贖罪であるので、少しも宇宙原理の秩序や過程の関心に関係がないのです。(Berry, quoted in Farrell, 8 頁)

## 祈り

また、私達の祈りも通じませんでした。人々は、ロザリオを暗誦し朝と夕べの食事の後に感謝の祈りをしてまた毎日ミサに行っても、いまだに環境危機に注意を払ってはいません。これは本当に祈りでしょうか？本当に神に私達は話をし聞いてもらっていますか？ある司祭が数年前に、福岡市の若い司祭の会合でカトリックの本の改訂版が必要だと意見を述べていました。私は人々に本なしでどのように祈るかを教えた方がいいと言ったら彼らは私の言う事を理解できませんでした。今、何人かの人々は禅、仏教を求めています。しかしその歴史はカトリック教会の歴史とは変わりありません。1930 年代、禅の導師はますます、軍人にトレーニングを受け、そして第二次世界大戦の間、巨大な黙想ホールは東京の心臓部に建設され、その目的のため限定して使われました。偉大な D. T. 鈴木自身は強大な日本の侵略の支援者でした・・・(Jones, 212 頁)。20 年前、私は William Johnston に会いに行きました。よく祈る人々はどのようにして正義の問題に対して盲目でありえるかを尋ねました。彼はこの問題に気づいた事はなく多分彼に気づかせるため私は送られたらと答えました。

Bernard Cooke は、秘跡のしるしと意味をそれらに吹き込む神学が神の存在を黙想するよりしばしばむしろ距離を置かれたと指摘しました。(McDonagh, Passion, 148 頁)

## プラトン

しかしながら、私は私たちの無知と冷淡をキリスト教のせいにはしません。プラトン(西洋の哲学の父親)は少し非難されなければなりません。(Plumwood, 524 頁) 彼は、自然の世界が劣って汚れたものであるとみなしました。(Plumwood, 525 頁) プラトンからもたらされた二元論がどの程度でヘブライの伝統からもたらされた伝統がどの程度？私は知りませんが、私たちは、私たちの文化に向かって、より批評を加える必要があります。

## 科学

また科学は何がしかの非難を受けます。Francis Bacon、René Descartes、そして Isaac Newton の発見は有機的に、世界的に傷つけ静的なしばしば誤りにもかかわらず世界の見解、この千年の西洋では克服されてきました。地球中心のと天動説のために彼らはきっとより科学的な自然観を代用しました。しかし、全ての生物界の視点を考慮に入れなかったのもので、

現代の科学の発展に対して十分に貢献し、複雑で入り組んでいるけれども、結局活気のない機械と看做すような科学的なパラダイムに貢献しました。(McDonagh, Greening, 109-110 頁) 最終的な経験的な検証を通じて自然界の意味を管理の本当の成功は、全ての宗教的な価値の世俗主義者の減少に通じました。(Lovett, Life, 41 頁)

## 科学と宗教

しかしながら、皮肉にも、科学者の中に、科学が暗示する、科学を超えることに気が付きが育っています。確信の要素は科学的な経験の究極の範囲にあります。例えば、引力は経験と確信の両方です、それが私たちが適切に対処できない謎であるので。宗教的観点の中でこのタイプの経験を再編成して、キリスト教の新しくて、より大きくて、より膨張性の規模にそれに関連するのは、恐らく私たちの時間の神学の役割です。言い換えれば、科学は宇宙の新しい話、すなわち、新しい暴露を私たちに与えました。残念ながら、クリスチャンは、科学的ビジョンをまだ受け入れていませんし、まだその宗教的な価値感も見えません。神学は現在で命と存在の、より大きい共同体からそれ自体を隔離しました。

私たちの世界は私たちが科学的観察で知っているものですが、これはキリスト教が最初に現れた古代世界とは全く異なっています。どちらの場合も、連続性と不連続性があります。しかしながら、今日、私たちは重大さの順序というものの並びにおいて並ぶものがない不連続性という経験をしています。それは現在のすべての宗教中にそのような困難がある理由です。宗教のいずれもこの新しい挑戦に対処するために備えられていると感じられません。それは世界の宗教がエコロジー問題に対処していない理由です。宗教のいずれも地球の運命への少しの有効な責任も示していません。地球の運命への責任を引き受けなかったことで、人間に対するのと同じように神に対する宗教的責任の欠如がありました。私たちは、私達の神の意識が応答する方法のレベルにおいて下がることを私達の世界を傷つけているようには理解していないようです。それは私達が神の素敵な考えを持つ世界に住んでいるからです。

私たちが認めなければならないものの1つは神の創造における現存は私達の新しい歴史的な文脈において異なって理解されるものであるということです。元々、神は常に変動する自然現象を通して世界中に顕在されるものとして知覚されました。それは単に当然のことでした。時間は永遠でした。いつもあったように、そしていつもそうであったように宇宙が存在したようなものです。

今、私たちには、私たちの宇宙の経験において何か異なったものがあります。より早く、かかわったことは即座の直感的な経験でした：私たちは私たちに関して単に自然界を観測しました。しかしながら、より最近、私たちは経験的な科学に関して自然界を見始めました。徐々に、私たちは宇宙が単に当然のことではなく、本当に、予定通りに始まったことを理解するようになりました。私たちには、現在宇宙について新しい感覚を持っています。



一つは正確な起源があり、そしてより多くの複雑なものに対してより劣るものからより大きな意識のモードへ導かれる一連の変化を識別することです。これらの二つは、関係づけられる必要があります：意識の上昇的な宇宙と霊的な共同体の上昇。宇宙は共同体の最も基本的な表現です。それは究極の神聖な共同体です。

Pierre Teilhard de Chardin はクリスチャンの話が宇宙小説と同じであり、私たちがこの光の中でそれを理解できるだけであるなら神学の研究が、より不可欠でより強力になるのを示しました。彼らは共同体と生態をくつがえすことで、より効果的に取り乱している人間に対応できるでしょう。Teilhard には、3つの基本的な実績がありました。彼は宇宙には霊媒霊的な寸法が始めからあると記述する最初の人でした。第二に、彼は人間の話が宇宙小説と同一視しました。三番目に、彼は償却の過程に関する過度の心配から、より大きい創造の過程への強調まで動く重要性を強調しました。

## 資本主義

資本主義も私たちの地球の破壊において大きな役割を果たしました。キリスト教はこの非常時の責任のいくらかを取らなければなりません。‘14世紀、15世紀において、教会と社会の制度は本当に申し分なく明らかに飽くなき富に従事するために悪用されたのです。人々はもはや生きるためだけでなく、利殖のために生きることを勧められています。...’殺害の道徳的な教育は貧乏人が自衛で殺す権利から‘ものを保存することのために貧乏人を殺す権利’に変異しました。(Lovett, Life, 33 頁) ‘私たちは私たちがそのようにかかわるシステムの、例えばこの制度の始めの世紀さえの人的犠牲をつかむ歴史的なマイナス面が非常にわかりにくいです。メキシコの人口は1532年に1687万1408人で、1580年は189万1267人でした。Hans-Guenther Prien は新世界の総人口は1492年に1億人と述べました。1570年までには、総人口は彼は10-1200万人は生き残ると見積もりました。これは並ぶものがない割合のものの大量殺戮です(Lovett, Life, 35 頁)。

もしその制度がそのような分布によってぞっとさせるものになるのであれば、何故はじめにそこではじまったのか？Wallerstein は理由が正確にそのような悪い分布を正確に保障することであったと示唆します。’彼は以下のシナリオを提示します。経済的に、封建的なヨーロッパは破綻していました。平等主義者の分配志向は強いものでした。小さな小作農は生産者としてかなりの効率を示していました。互いに殺しあう揉め事は支配的な階層の中でありがちなことで、カトリックのイデオロギーは内的に平等主義者の運動から緊張のもとに結合していました。願望された変化の指示は上層をびっくりさせました。この危機に対しての彼らの反応についての有効性はWallerstein によって二セットの値によって示されます。1450年と1650年の間の200年の間を見て、彼は、この期間の終わりまでには、生存に適した社会制度として、1450年に高い層であった家族と1650年の位置では占領されていた人々の双方の共同体の高いレベルについて確立されていました。1650年から1900年の間につれて、彼は1450もの比較の多くがいまだ真実を維持していることを発見しました。

この傾向は平等主義が強烈に後退していきました。(Lovett, Life, 36 頁)。

## 帝国主義

Lovett が言うように、私たちが確かに含まれているその制度について歴史的なマイナス面を理解することは難しいことです。資本主義の目的が不平等な分配を確保することを私たちの大部分は受容しないでしょう。しかし、証拠がそこにあります。Noam Chomsky は海外へのアメリカの介入の証拠書類を提供します。軍事介入だけの数はほとんどの人々がわかるよりはるかに大きいです。紹介する例を選ぶのは困難です。1849-1913 年から 米国海軍艦船はハイチ湾に 24 回入り、アメリカ人の生命と財産を保護するために「アメリカの人生と特性を保護する」ために 24 回入港しました。(Chomsky, 200 頁) Perry は日本に西洋と貿易を押し付けました。海兵隊は 1873 年と 1893 年にハワイに上陸しました。フィリピンは併合されました。義和団の乱に介入するために派兵しました。米国は、コロンビアに対して造反するようにパナマに圧力をかけました。キューバ、ドミニカ共和国、ニカラグア、朝鮮戦争、イラン、グアテマラ、レバノン、インドネシア、ベトナム、エルサルバドル、チリ、アンゴラ、パキスタン、トルコ、グレナダ、リビア、イラク、再びパナマ、イラク、アフガニスタン、リストはさらに続きます。

1990 年 8 月以前、(すなわち、湾岸戦争に備えた中東での養成の始まり)、世界の 35 カ国に 395 の主要な軍事基地があり、43 万 5 千の米兵が配置されていました。別の 4 万 7000 人の米海軍と海兵隊員が外国水域にある艦船に配置されました、そして、1 万の米軍がグアム、ジョンストン環礁、マーシャル諸島共和国、ミッドウェイ島、プエルトリコ、ヴァージン諸島、およびウエイク島のアメリカの海外の領土の上の 20 の軍事基地に配置されました。米国は私たちに日本における基地が日本の防衛のためのものであると信じさせるでしょうが、これがそうでないのは米国上院の歳出委員会における委員会の分科会の公聴会で明らかになっています。1982 年 4 月 21 日に: ‘沖縄における米海兵隊は日本の防衛に割り当てられません。それらは、代わりに米国の第七艦隊即応予備力海兵隊を構成し、第七艦隊の運用区域でどこでも展開できました...’ (情報の自由法に基づき入手されたドキュメント)’。

人々は米国は (あるいは過去におけるイギリスや植民地支配力を有している国は、民主主義を防衛するためにその全てをおこなっているというかもしれません。日本人の中には自分達が、太平洋戦争でアジアを解放することを目指していたとまだ主張している人もいます。それは本当ではありません。1898 年の米国は植民地をしてフィリピンを求めるべきかどうかという討論では、上院議員の Albert Beveridge は「太平洋を支配する権力が世界を支配する権力であると」と主張しました。「そして、フィリピンと共に、その権力はあり、永遠にアメリカ人の共和国となろう」(Asia Link, p. 2). Taft 大統領は主張しました。「種の優越によって事実上、地球の全体の半分が私達のものになるときもそう遠いものではなく、それは道徳的なものであると説きました。(Chomsky, 158 頁) 1927 年には国務次官 Robert Olds は「中米の運命をコントロールします。そしてそれはそのような進路

を・・・絶対的に指図する国益という単純な理由によるのです。」... (Berry et al., 5).

しかし、多分、米国の動機の最も明確な声明は George Kennan から来ました。1948年に、Kennan(国務省の計画スタッフの長)は基本的な米国方針の目標を述べました：

.... 私たちには、世界の富の 50%について有していますが、人口については 6.3%しかありません... この状況では、私たちは嫉妬と憤りの対象にならずにいられません。来るべき時において私達の本当の任務は国家の安全保障に対する積極的な損害なしにこの不均衡の状態を維持することを許容する関係のタイプを編み出すことです。そうするために、私たちはすべての感傷と白昼夢を省かなければなりません。そして、私たちの留意は私たちの即座の国家目標のいたる所に集結されなければなりません。私達は自分達で今日の利他主義の贅沢や世界の慈善の負担を提供するというごまかしをする必要はありません。... 私たちは雲をつかむような話を止めるべきです。そして実在しない、人権、基本的生存権を掲げることや民主化のような非現実的な目的・・・ 私たちがまっすぐな支配の概念を行使するときはそんなに遠い先のことではありません。私たちが理想主義的なスローガンによって妨げられるより、より良いものです(Nelson-Pallmeyer, 5 頁).

## 政治

米国と他の先進工業国はこの位置を維持しています。1982年から1990年の期間、4180億ドルについて貧しい南部から豊かな北部への移転がありました。(George, xv) この多くが利払いでした。Georgeは森林伐採がどう直接累積債務危機にリンクされるかを示しています。単に、より多くの木を削って、より多くの換金作物を植えることによって、貧しい国はそれらの負債を修理できます。経済学の理論とこれを許容するシステムには不具合があります。‘経済恐慌は避けられない道徳的なもの(Lovett, Life, 67)です’。そして、私たちの政治についても不具合があります。マキャベリの君主論からの一説は私達の政治哲学を要約します：

なすべきことについてすることをあきらめることは彼の保存より彼自身の破滅をもたらす人。全てにおいて善良である知的職業をなすことを望む人は、やむなく悲しみがもたらされます。善良でない人があまりに多いことで必然的に悲しみがもたらされます。それゆえ、どうして善良でないのか、そしてどうしてこの知識を使う方法と事例の必要性に従っては使わない方法を学ぶことを彼自身維持することを望む君主論が必要となるのです。(Lovett, Life, 70 頁)

経済的利権は法的で政治上のオーダーを支配するようになりました、そして、政治秩序は文化の機能を置き換えました。彼らは経済システムが供給していたものを必要としたと人々に納得させて、政治の役割は鎮圧とプロパガンダになりました。政治の本当の役割は

経済団体の形成に文化的価値観を調停することであるべきです。(Lovett, Life, 90 頁)

人口

人口と人口過剰に関する 1 つの最終的な言葉。人口の増殖は文字通り、地球の生活 (Rosemary Radford Reuther, inside the front cover of Berry and Clarke) 自体を脅かします。教会はこの問題に組み付くことに嫌悪感を持っています (McDonagh, Greening, 59-72 頁)。McDonagh は、「妊娠中絶合法化への反対の本当の意味は何ですか?」と尋ねても私は、それが最初に私たちの惑星に課したものを意味すると信じています。避妊は命を守ることがあります。

これらは簡単に言って、私たちの現在の危機の原因です。さらに問い合わせるのはもちろん可能です。私たちはなぜこの種類の政治システム、この経済システムを望みますか? 私たちはなぜ他のもの以上を望みますか? 私たちは、なぜ世界の商品を共有するのを拒絶しますか? 心理学者の中には更に多くの所有物を掴むことで私達は死に直面するという心配を超えて死に現れると信じている人もいます。ますます多くのものに自分達を取り巻くことによって、私たちは、死の現実を避けて、少なくとも私たちが所有しているもので、ある程度の不死を獲得することを望んでいます (McDonagh, Greening, 162 頁)。これが本当であるなら、それは私たちが神を信じないで、また神が私たちを愛して、死の後にさえ私たちの世話をすると信じていないことを意味します。私たちはまだ福音を聞いていないのです。

## 希望

新しい話

よい知らせが今あります。状況は絶望的ではありません。私たちは何かができます。最も重要なことは、学んで、世界の話をも他の人にすることです。ここに、Brian Swimme からの長い引用を紹介したいと思います:

... 物理的な観点と、...異なったイオンの流れは質的に異なった体験をあなたに与えるでしょう。或いは、等しく真実で、質的に異なったムードはあなたの神経系でのイオンの異なった運動として現れるでしょう。尋ねたいと思うという質問は単にこれです。何が、イオンが動くのを可能にしますか? または、何が、あなたが考えるのを可能にしますか? あなたはあなたの考え、感じ、および不思議に思うためにどんなパワーを当てにしますか?

イオンはそれら自身のパワーで動きません... 限定した試験は、脳のエネルギーで浸った分子がイオン運動に原因となるのを示します。より厳密な試験は、この分子は最終的にあな

たが食する食物より得られるエネルギーによりイオンが押されることになるのを示しています。食物は太陽からエネルギーを得ました。食物はくもの巣状の網のようなその分子のネットで光子のわなを仕掛け、フォトニックのエネルギーのネットで押して、あなたの脳でイオンを引きます、あなたの驚くべき人間の主観性の現在の瞬間を可能にして。この瞬間に、たった今、イオンがこの道の流れそして太陽からのエネルギーを組織した方法において流れていきます。

しかし、まだ私たちはしていません。どこから、光子は来ましたか？ 私たちは、私たちの太陽の中心の中では、日中の光子を放出する過程において、原子溶解が水素原子からヘリウム原子を作成するのを知っています。それで、光子が水素原子から来るなら、どこで、水素は光子を手に入れましたか？ これは太古の（ビッグバン宇宙モデルの）火の玉、それ自身の創造の瞬間まで私たちを導きます

太古の火の玉は光についてどっと流れ出て、最初に非常に強力であるので、それはまるで潮のうねりの上にいる小片のバーク船のような基本的な分子を運びました。しかし、火の玉が、広がり続けていたとき、... エネルギーレベルが水素原子の共同体で電子と陽子でそれを捕らえることができたポイントまで減少するまで、光は落ち着きました。火の玉からのエネルギーに伴う激しい水素原子、エネルギーの交響曲の嵐はこのエネルギーをあきらめるのに極度に相性の悪い一群で結ばれます。しかし、水素原子は光子の形で星の中心では、やむを得ず彼らのエネルギーを放出します、そして、このフォトニックシャワーは初期から、あなたの考えを動かします。(quoted in Lovett, Life, 82-83 頁)

そのように今も私達を初期より炎は燃え立たせます。私たちは宇宙の炎です！ 私たちは宇宙が意識へともたらず宇宙であり、そして、私たちの生活は宇宙全体のエネルギー以外の何でもないという精神的なエネルギーです。(Lovett, Life, 84 頁) 宇宙の話は私たちの話です。話を知らないなら、私たちは何も知りません。(Berry and Clarke, 7 頁) しかし、また、それは神の話です：‘・・・出現の状態と宇宙の生存について、極度の品位に対して注意を払う必要があります’ ミリセカンドの問題-。宇宙の出現の蓋然性を捕まえることは、過程の情熱的な最終的な状態で明らかにされた内在的な摂理を経験することです。(Lovett, Life, 82 頁) 宇宙の話は啓示です。私たちは、創造に関する科学的説明の宗教的な価値感を見る必要があります。(Berry and Clarke, 26-27 頁) 私たちの時間開発上の宇宙の現在の理解は神の新しい啓示の経験です。(Berry and Clarke, 7 頁)

「私たちは宇宙が意識に至る、ということです。」 「これは、私たちは宇宙の意識である・・・ということの意味をしています。宇宙の出現について 200 億年前の遠い話に関する私たち自身を知ることが欠落することは人間の善に対して近づくことが決してできなくなります。不可欠な人間の善に向かって働くことの最初の第一歩は私達の基礎的な真実のような宇宙の話しにおける和解と喜びです。また、このステップは当然のことと思っはいけません：長い間、現在、私たちの多くは私たちの地球で絶対に持続可能でない消費者運

動の収益価値を全うしたことです。私達自身の理解はこの宇宙を犠牲にしていきました。・・・私達の生活様式は地球に所属することを否定するものであり、人間の条件を制限されたものとして受容することを拒絶するものです。これは私達が主張するどんな精神性も損なうものであります。(Lovett, Earth, 21 頁)

「私たちは宇宙が意識に至る、ということです。」私たちが宇宙について考えるということではありません。宇宙は私たちと私たちを通して自任します。(Berry and Clarke, 21 頁) 私たちは宇宙の一部です。宇宙は私たちより大きいです。その関心は私たちのものよりとても重要です。「宇宙自体は第一の神聖な共同体です」(Berry and Clarke, 16 頁)。私たちは、人間中心から宇宙中心に考え方を変える必要があります。

## 先住民

私たちは土着の民族から大いに学ぶことができます。オーストラリアの先住民は陸への彼らの依存を理解しています。Bill Neidjie は、「私たちの話は陸にあります」と言います...」(Plumwood 531 頁)。Navajo は彼らのいやしの儀式で宇宙の話をしてします。(Berry and Clarke, 27 頁) 私のお気に入りの一つは 1854 年の合衆国大統領へのシアトル酋長の手紙です:

ワシントンの偉大なる酋長は私たちの土地を購入することを望んでいます.....  
この考えは私たちにとっては奇妙なものです。私たちが空気の新鮮さと水のきらめきを所有していないなら、あなたはどうしたらそれらを買うことができますか?  
この地球のあらゆる部分が神聖です。あらゆる輝きの松葉、あらゆる砂浜あらゆる暗い森の霧、開拓地、および昆虫のハミングが私の同胞の体験と記憶の中では聖なるものなのです。木を勢いよくめぐる体液はインディアンの思い出を運びます... 流れと川に住んでいるこの輝きの水は水だけではなく、私たちの先祖の血液でもあります... 彼らが星の中を歩きに行くとき、白人の死者は彼らの出生の国を忘れます。私たちの死者は、それがインディアンの母親であるので、この美しい地球を決して忘れません。私たちは地球の一部です、そして、それは私たちの一部です。(Lovett, Life, 99-100 頁).

## 動物

時折、私達がそうであるより意識して相互のリンクを動物たちはしているように見えます。Yvonne Vladislavich は 1991 年 6 月にヨットで外洋にいました。そのヨットは爆発しインド洋に沈んだのです。究極の恐怖、彼女はサメがよく出る海域に投げ出されました。其の時、三匹のイルカが彼女に近づきました。そのうちの一匹は彼女を支えるために前進しました。他の二匹は輪になって彼女の周りを泳ぎサメからガードしました。このイルカたちは Yvonne を最終的に彼女が海の中のマーカーに押し流された後、それに上るまで世話し続

け、彼女を保護しつづけました。彼女がマーカに救われたとき、イルカたちは彼女の元に留まり続け、海の上に留まりつづけました。そして 300 キロメートル以上離れた外洋で保護していたことは決められていたのです。(Robbins, 24 頁)人々を助け、保護するイルカや動物の話は数多くあります。それらに関心を持つことは私達を助けることになります。多くの米国の刑務所での収監者の研究で、囚人のほとんど誰も子供の頃ペットを飼っていたことが明らかになりました。他の研究では、囚人たちの釈放が近づくにつれ彼らの房にペットである猫を飼うことを認めた人たちは後で社会復帰がしやすくなることがわかりました。(Robbins, 23 頁)

## 結論

Berry は、私たちはいくつかの状態を認識する必要があると言います:

- 1 宇宙は問題の共有であり、物の収集ではありません。
- 2 地球は、存在していて、単に不可欠の機能で生き残ることができます。
- 3 地球は一回の贈与であり、二度目はありません。
- 4 地球が原始であり、人間はその派生です。
- 5 私たちは殺生物剤と地球崩壊の絶対悪を反映する新しい倫理的な原則を必要とします。

教会はこれらの状態の理解を進めなければなりません。次に、すべてのカトリック信徒、個人から教皇まで、またあらゆる構造一司教会議、教会委員会、学校などエコロジーをそれらの最優先にします。これは教会の構造への変化と運営する方法を必要とするでしょう。私たちは最新情報と考えを必要とします。私たちはイニシアチブを考えて、活動する人々を必要とします。それで、教会は、人々が考えることを制御しようとするのを止めなければなりません。私たちの同胞は、真実が固定化されず、不変でないということを知る必要があります。信頼は理論の形の受諾ではなく、「終わりなしで歴史的に複雑な戦い」です。(Lovett, Earth, 5 頁) この戦いの大部分は、必要な変化が望ましいと政府、官僚制度、および産業を説得することを試してみることでしょう。

タスクは、異常に大きなものですが、不可能ではありません。恐らく、克服すべき最大の難関は、問題に取り組むために人々を動機づけて、活気づけることです。序論で言及されるように状況に関する単なる知識は麻痺させることがあります。私たちは地球を保護するために私たちを動機づける祈りと典礼を見つけることができますか? しかし、結局、それは私たち一人一人にもたらされます。私たちは戦いに参加する用意ができていますか?

## 図書目録

本

Berry, Thomas, & Clarke, Thomas, *Befriending the Earth*  
Twenty-Third Publications, Mystic, Connecticut, 1991

Berry, Thomas, & Clarke, Thomas、地球を助ける 23 刊、ミスティック、コネチカット州  
1991 年

Berry, Tom et al. *Dollars and Dictators*  
The Resource Center, Albuquerque, 1982

Berry, Tom 他 ドルと独裁者達、リソースセンター、アルバーカーキー1982 年

Carson, Rachel: *Silent Spring*  
Penguin, London, 1965

Carson, Rachel、沈黙の春、ペンギン、ロンドン 1965 年、

Chomsky, Noam: *Year 501*

Verso, London, 1993

Chomsky, Noam、年 501、

チョムスキィ、ノーム：年 501

ベローソ、ロンドン、1993

Earley, Jay: *Inner Journeys*

Samuel Weiser, Inc., York Beach, Maine, 1990

Earley, Jay、内への旅行、サミュエルワイザー(株)、ヨークビーチ、メイン州 1990 年

Haight, Roger: *Dynamics of Theology*

Paulist Press, New York, 1990

Haight, Roger、神学の力学、パウロ会出版、ニューヨーク 1990 年

George, Susan: *The Debt Boomerang*

Pluto Press, London, 1992

George, Susan、ブーメラン的債務、プルート出版、1992 年

Jones, Ken: *The Social Face of Buddhism*

Wisdom Publications, London, 1989

Jones, Ken: 仏教の社会的外面、ウィズダム出版、1989 年

Kolbenschlag, Madonna: *Lost in the land of Oz*

Harper and Row, San Francisco, 1990



Kolbenschlag, Madonna: オズの消えた島、ハーパーロー出版、サンフランシスコ 1990 年

Kuhn, Thomas: The Structure of Scientific Revolutions  
University of Chicago Press, 1970

Kuhn, Thomas : 革命の科学的構造、シカゴ大学出版 1970 年

Lovett, Brendan: Life Before Death  
Claretian Publications, Quezon City, 1986

Lovett, Brendan: 死の前、クレット会出版、ケソン市、1986 年

On Earth as in Heaven  
Claretian Publications, Quezon City, 1988  
天国のような地上で、クレット会出版、ケソン市、1988 年

McDonagh, Sean: To Care for the Earth  
Geoffrey Chapman, London, 1986

McDonagh, Sean: 地球を保護するために、ジェフリーチャップマン、ロンドン 1986 年

The Greening of the Church  
Geoffrey Chapman, London, 1990

教会の緑化  
ジェフリー・チャップマン、ロンドン、1990 年

Passion for the Earth  
Penguin, London, 1992

地球への情熱  
ペンギン、ロンドン、1992 年

#### 定期刊行物

National Catholic Reporter Farrell, Michael J. :  
Thomas Berry's Dream of Biocracy  
November 13, 1987, pages 7-9

ファレルナショナルカトリック通信員、  
国家のカトリック教徒のレポーターのファレル、Michael J :  
トーマスベリーの生物学の夢、1987 年 11 月 13 日、7 頁～9 頁

Asia Link May/June, 1990

アジアリンク 1990 年 5 月/6 月

Quotations from the Bible are from the New Revised Standard Version, macBible, Zondervan Electronic Publishing, Grand Rapids, Michigan, 1990.

聖書からの引用は macBible Zondervan 電子出版の新改訂版標準版より引用しました。グランドラピッド、ミシガン州 1990 年